

# 松林と鬼



ぼくは、お母さんのお産で、おばあちゃんの家に来ています。

もう春なのに今日は雪がふってびっくり。

ぼくはおばあちゃんと近くの松林まで散歩にでかけました。



松林は雪をかぶって真っ白でした。

おばあちゃんは、ぼくのをつないでくれました。





広丘野村の松林にはね、鬼がいるそうだよ。

その話を聞いてからぼくは、松林へ行きたくて仕方ありません。



ぼくは、ずっと考えました。  
本当に鬼がいるのかな。  
鬼って大きいのかなあ。



何かどこかから、ゴォーと聞こえたような気がしました。  
空からチラホラ雪が落ちてきました。

ドスンと音がして、また空から雪がちらちら降ってきました。

鬼の足音かな。

ぼくも鬼のまねをして、地面をどンドン踏みました。

だけど、雪は落ちてきませんでした。



鬼が近くにいるのかもしれない。  
もっと奥の方に行ってみようよ。





おばあちゃん、鬼の声がしたよ。

鬼を探しに行こう。



ここで鬼が休憩したのかなあ。

もしかしたら、もっと奥のほうかなあ。

もうちょっとおばあちゃん、歩いてもいい？



もっと奥のほうだよ。  
ぼくとおばあちゃんは松林の奥へ歩いて行きました。  
だんだん暗くなってきました。



これはなんだ？

木がギザギザにちぎられていました。

鬼が、ガブって食べたんだ。ぼくはこわくなりました。





そろそろ帰ろうね。

おばあちゃんに言われて鬼をさがすのをやめにしました。

おかあさんが心配するからね。



おばあちゃんの家に着きました。  
寒かったけど、ぼくは松林の散歩が大好きです。  
また鬼を探しに行きたいな。



あれ、黄色いお花が咲いています。

おばあちゃん、あのお花をお母さんにあげても良い？

ただいまー。

お母さん、あのね、松林の鬼がね・・・。

松林と鬼

<http://p.booklog.jp/book/111784>

著者 : t-iro

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/t-iro/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/111784>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト